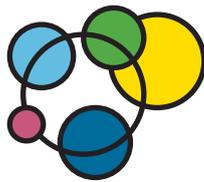


そわにえ  
**Soigner**



第9号

「Soigner (ソワニエ)」とは、「世話をする・手当てする」という意味のフランス語です。

2007年4月20日発行

発行/東京訪問看護ステーション協議会 (責任者 森山弘子)  
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4-17  
社団法人東京都看護協会内  
TEL : 03-5229-1534・1520 / FAX : 03-5229-1524

INDEX /

- |             |                 |
|-------------|-----------------|
| さんぼみち……………① | ステーション紹介…⑤      |
| 1日体験研修報告…②  | Bible・My Life…⑥ |
| ブロック会報告…③   | PDNから……………⑦     |
| 委員会報告……………④ | 編集後記他……………⑧     |



「海と桜(熱川温泉)」 練馬区 磯村豊三さん撮影

**サイズとニーズにあった車いす選定を**

ラックヘルスケア株式会社 車いすユニット

営業部 東日本営業課 中村 研司



北欧を中心とするヨーロッパから福祉機器を輸入する会社に入社して早7年。仕事柄在宅や施設を訪問して車いすの調整やセッティングを行うことが多いのですが、ご相談をいただくケースはたいがい利用者が車いすからずり落ちる・斜めに傾いて座る・お尻や腰が痛いなどなんらかの問題を抱えています。訪問して状況を確認すると原因を見つけることはそれほど難しくありません。利用者のサイズとニーズに車いすが合っていないのです。ぶかぶかの靴を履いて歩けば歩きにくいだけでなく靴ずれが起りますし、ハイヒールやサンダルで登山をする人もいません。サイズとニーズに合わない車いすが先述のような問題を起すだけでなく、ADLに制限を加えたり長期的には脊柱の変形や関節拘縮・褥創などの二次障害につながるといわれています。寝たきりの弊害が広く認識されて座って過ごす時間が長くなったことを考えるための環境を整備する必要性が高まっていると言えます。

しかし、「車いす＝移動のための道具⇒ひとを運ぶ運搬車」という認識がまだまだ一般的なようですし、医療現場で利用されている車いすも大半がその領域にとどまっているのが現実です。一時的な運搬のための道具に長時間座ること自体に

ミスマッチがあり問題を生み出す原因となります。そこで、是非知っていただきたいのが「車いす＝ADL向上のための道具⇒自立のための道具」という考え方です。どうして車いすが自立に役立つのか？それは座ることに使っていたユーザーの残存機能をADL向上に振り分けるということを実現します。座るということ、特に長時間動くことなく座り続けるということは我々が認識している以上にエネルギーを消費します。お年寄りや障害をお持ちの方はなおさらでしょう。健側の手でアームレストを握っている(しがみついている?)片麻痺ユーザーなどは顕著な例と言えます。からだが麻痺側に倒れないよう貴重な残存機能を使って姿勢を保とうとしています。適正に調整され、からだを支える機能のある車いすを利用することでこの手がフリーになる可能性があります。きっと生活が大きく変わるはずですよ。

車いすに限ったことではありません。選定した福祉機器は利用者のサイズとニーズに合っていますか？その機器は利用者の自立支援にどんな可能性を提供できましたか？再検討のきっかけとなれば幸いです。



## 訪問看護ステーション1日体験研修—続報

2年目を迎えた「訪問看護ステーション1日体験研修」の準備・奮闘ぶりを冬号では途中までお知らせしました。冬号でお願いしました、研修生あてのアンケートもしっかりお渡しいただき、有難うございました。昨年を上回る回収率となっております。アンケートの概要と研修生の方々が書いてくださったコメントを後段で紹介させていただきます。昨年とは少し違う…と思えるような感想をいただいていますので、ご期待ください。

### 《研修委員会の動き—その後—》

前号で発送までの様子をお知らせいたしましたが、研修生・ステーションに発送した後は、少ないといいな…と願いながらもキャンセル連絡の対応を行います。キャンセル連絡や変更希望連絡は事務局に入りますので、状況の聴き取りを事務局にお願いし、委員はその連絡を受けて対応を相談することになります。今年度のキャンセル数は12名の研修生でした。理由は様々ですが、『病院職員の退職のために研修に出せない』などもきかれました。今回やむを得ない事情でキャンセルをした方々には、次の機会には参加していただけるといいですね。研修日の変更の希望連絡もあり、研修ステーションへ変更可能かどうか確認をします。今年度も数件の変更お願いをさせていただきました。その際に快く応じてくださった管理者・所長にはあらためまして御礼申し上げます。

そして、研修生からの連絡が落ち着くのを待って、最終連絡を発送します。これは、皆様のお手元には研修1週間

前に到着したと思います。

さて、ここまで準備が整いましたら、研修開始はもう目前です。

### 《1/22～1/26いよいよ研修!!》

研修中は、区部・多摩部に分かれてトラブル対応担当を設けます。研修中は様々なトラブルが考えられますので、委員と事務局にて備えています。が、お蔭様で、昨年に引き続き今年度も大きなトラブルがなく、無事5日間の研修を終えることができました。これも現場で細やかな配慮をいただいているからこそ…の結果ですね。最終日の17時を迎えると、委員も事務局もホッとします。

### 《アンケートを待つ時間》

研修終了後、アンケートが集まり始めると、事務局がざっと目を通して急ぎの対応の必要性を図ります。さらに約1ヶ月、集まるのを待ってアンケートの集計に取り掛かります。どのような反応があるのか、一枚一枚に目を通す時はワクワクもドキドキもありの心境です。

今年度の回収率は研修生68%、ステーション72%でした。昨年比では研修生からの回答率がUPしました。回収方法を、アンケートを研修生にお渡しいただく、研修生が郵送で送るというやり方の変更をしたことで、効果がありました。お手数をおかけいたしました、ご協力有難うございました。

今回は、返信に郵送の手段を利用したことで、ご挨拶文にアンケート内容以外の感想を添えてくださった研修生も多く、ここではその一部もご紹介したいと思います。

### 《記事掲載されます》

訪問看護ステーション1日体験研修の記事が、「コミュニケーション」と「訪問看護と介護」5月号に掲載されます。また、「エキスパートナース」にもコラムとして一部掲載されますので、ぜひご覧ください。ステーションとしての思いや研修生の気づき等がうまく伝わっているでしょうか。チェックしてください。

### 《成 果》

研修を経験していただいた方々には今更のまとめになりますが、協議会事業としてまとめをさせていただきます。

- ・地域型研修：地域の病院とSTとの連携が深まった、実際に連携を開始するきっかけになった等のアンケートの結果から成果があったと思われる
- ・希望別研修：成人・小児・精神に分けて研修生の希望を募り、出来るだけ希望に添うよう研修を組んだ。しかし、実際に参加される方が希望別になっていることを知らな



かったなどのアンケート記載もあり、今後対応が必要と考える。

#### ◆アンケート概要から

\*研修生が在宅療養のイメージをより具体的に知ることができた／\*研修生が訪問看護ケアについて具体的に知ることができた／\*研修生が連携の重要性を知ることができた／\*ステーションは相互理解・連携のため研修継続を考えている／\*ステーションは研修効果がでるような研修方法を希望している

#### 《1日体験研修これから》

19年度は地域型をさらに進めてゆく必要があるでしょう。また、同時に希望別も再検討する必要があると思います。今後体験研修の成果を研修直後のみでなく、連携の観点から図ることも検討されなければならないと考えます。

まだ2年目を迎えたばかりの研修ですが、求められている研修でもあります。協議会としてステーションの皆様にも求められる内容の研修作りに努めますので、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

(研修委員会 委員長 曾木はま子)

#### 感想を添付された研修生の文の一部

ご自宅で、利用者の方々のお人柄や訪問看護への信頼を感じることができ、楽しかったというのが一番の思いです。治療を目的とした一時的な場である病院と比べ、ご自宅では、環境や家族関係を含めた「その人らしさ」を強く感じました。また、住環境によっては、便利であるベットの場所塞ぎになったり、排痰を促す目的で用意された加湿器が、木の天井板をはがしてしまうので使用できないという状況があり、住環境を考慮した福祉用具や医療機器の導入、退院調整の重要性を今までよりさらに認識することができました。

#### ★アンケート コメント紹介★

- 以前より訪問看護STでの研修をしてみたいと思っていたので、今回参加できてとてもうれしかったです。病棟では見えない部分等相互共有できれば解決できそうな部分が多くあることがわかりました。
- 利用者毎のオーダーメイドのケアが行われることに感動しました。
- 自宅で過ごすときは、生活優先であること。本人と家族の意向が第一であることがわかった。
- いかに自分が病棟で患者を管理するという目線で見ていたかに気づいた。
- 訪問看護を受けている在宅療養の患者様は思った以上に看護（医療）度が高かった。
- 同行させていただいた方の生の声を伺うと、病院に対する評価は厳しいものがありました。病院・在宅は同じラインと捉え、患者様が安心して安全な医療を受けられるように再度振り返り、今後患者様と向き合う姿勢の見直しのよい機会を作っていただきました。看護の原点をみた思いがしました。
- 病院にいるときの状態が良好になったことがゴールではないことがわかりました。
- 思った以上に学びの多い体験でした。今後このような機会が多くもてれば、病棟看護師と訪問看護師の連携につながると思います。
- 在宅療養するにはそれなりの環境がないと不可と思い込んでいたが、そんなことはないという現実に気づいた。
- 病院にいるよりADL拡大していている。家族介護・ケアマネ・ヘルパーとの連携が見られた。
- 病院と在宅では療養環境も物品もコストもサポート体制も全く異なるため、それを意識して入院中のPTに接したいと思う。
- 在宅は医療の原点だと感じた。

## フ ロ ッ ク 会 報 告

## Report

平成19年2月21日、東京都看護協会にて平成18年度の第2回城北ブロック会を行いました。城北ブロックの豊島区、練馬区、板橋区、北区から26名（25ST）が参加しました。

### 1. 委員会から今年度の活動報告

城北ブロックには幸い、協議会の各委員が1名ずつおります。各委員から今年度の報告と来年度の活動予定が話されました。特に研修委員からは訪問看護体験研修がとても好評で、コミュニティーケアという雑誌に取材記事が掲載される予定との嬉しい報告がありました。

### 2. 研修「制度改革と訪問看護ステーション経営」

講師：株式会社矢野経済研究所

医療事業戦略部 遠藤 邦夫先生

医療、介護制度の大きな改革により医療現場は混乱し、訪問看護ステーションもその影響は大きいです。不安をすこしでも払拭し、今後のステーション経営の一助にしたいと参加者全員、真剣な面持ちで聴講しました。

まずは日本の高齢者の現状についてのお話がありました。時代の流れに伴い、変化する高齢者の意識や生活様式。核家族化や高齢者のみ世帯の急増、精神的ストレスが多くうつ病の増加など社会背景からとらえた高齢者の実態が理解できました。続いて、日本の医療制度の外国との比較。日本人は医療に多くのお金をかけているが医療難民が増えているという矛盾。医療制度改定後の医療現場の現状。厚労省が掲げるこれからの医療のありかたと各医療機関の役割。実際には療養病床の機能と実際の病床数や医療モールなど多様化する施設形態、在宅療養支援診療所による在宅医療の推進と現状、医療連携の必要性等です。

また、今後の新たな事業展開として予防医療における訪問看護ステーション参入のチャンスについてもお話がありました。経営という視点で捉えた様々な話からを聞くことができ、不安を抱える私達にとって少し勇気を貰えた研修となりました。(訪問看護ステーションつくしんぼ城北公園 堀村也千世)



## 各委員会からの報告

## 療養通所介護施設見学

師走に入り何処も忙しい12月15日に、東京都で2箇所目に認定された療養通所介護センターの見学に行ってきました。

療養通所介護はこの春に介護保険サービスとして新たにできたサービスですが、開設するには条件等が難しいため、開設が伸び悩んでいるのが現状です。そのような中、あえて開設されたステーションの存在を知り、推進委員会として早速、見学の申し込みをしたところ管理者の安村様を介して利用者様にも快諾の返事をいただき、見学とお話をしていただいたので報告いたします。

開設したのは、花小金井にある福生会訪問看護ステーションです。開設したのは10月からのこともあり、まだ、利用者は1名のみですが当日は理事長の福岡様をはじめスタッフの皆様・利用者様に迎えていただきました。

私たちが訪問してまず驚いたのはセンターが普通のマンションの一室であることです。全体の広さは60㎡弱でありそれまでは、訪問看護ステーションだけの施設でした。そこに療養介護センターとしての一室を確保したため、ステーションのスペースも狭くなり、療養通所介護施設としても1日に利用できる定員は1名という小規模な施設です。しかし、経口摂取が困難な方を、時間がかかってもゆったりとした気持ちで摂取することができる。また、訪問だけの関係だった時にはわからなかったことが、ここで終日過ごす事で1日の体調の変化を把握でき、訪問時も安心してケアの提供ができるようになったという利点もあります。まだ、利用者は1名であり採算を取れない状況ではありますが、このスペース、この

に続きましょう。また、開設に向けて分からないことや参考にしたい意見など、安村さんが気軽に相談に乗ってくれそうです。是非、ご一報を。  
(推進委員会委員 阿部智子)



↑裏口は車椅子で出入りできません  
↓利用者さんを車で送迎

NPO法人 高齢者を支援する福生会  
福生会訪問看護ステーション  
(管理者 安村伸子)

〒187-0003

東京都小平市花小金井南町

1-12-12-103

TEL 0424-64-8605

FAX 0424-64-8595



左側：ステーション、右側：応接室



キッチン裏側にトイレ・浴室があります



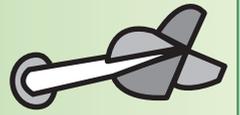
療養室

設備でも療養通所介護をはじめることができることを、他のステーションにも広く知っていただき、1箇所でも多くのステーションで療養通所介護をはじめてほしいというのが、管理者の安村さんの思いです。また、今後は療養通所介護を利用できる対象者の幅を広げ訪問看護でかかわっている利用者さんの多くに療養通所介護を利用して欲しいという要望もあります。

推進委員会でもこちらを見学する前は療養通所介護の開設には、難しいことが多そうに感じましたが、こちらを見学させていただいた後ではそれほど難しく考えなくても開設できそうに思えました。せっかく制度化された療養通所介護、他のステーションでも是非、福生会療養通所介護センターの後



前列左から丹治ヨシさん（ケアマネ）、福岡生穂さん（理事長）、安村伸子さん（管理者）、後列は女性スタッフ



## ステーション紹介

### 訪問看護ステーションみけ

春のうららの隅田川♪のすぐそば、人情味あふれる墨田区の向島に訪問看護ステーションみけを開設して4年目を迎え、現在、看護師17名、PT1名、介護支援専門員1名、事務員2名となりました。今回は事務員の目から見たステーションみけを紹介いたします。

#### \*たとえどんなにつらくとも…

2004年2月1日。開所式もないまま、冷たい雨の降る中、6名の看護師さんたちは自転車にまたがり訪問に出かけて行きました。以来、雨の日も風の日も台風の日も、猛暑でも大雪でも、途中でパンクしようとも、たとえ自転車に乗れなかったとしても、下町の狭い路地を走るにはこれしかない、ひたすら自転車をこぎながら利用者様宅を訪問しています。まさに白衣の天使☆と言うよりは白衣の肉体労働者！

#### \*青いファイルとピンクのファイル

開設月は90名だった利用者様も、現在は約2倍ほどとなりました。医療保険（青いファイル）と介護保険（ピンクのファイル）の割合はおよそ1：2となっています。医療保険の利用者様の中には、レスピレーターを装着してる方、気管切開・在宅酸素管理をしている方、胃瘻の方、など医療依存度の高い方が多くいらっしゃいます。また最近では精神疾患の利用者様も増加の傾向にあります。どのお宅に、どの看護師が訪問しても大丈夫のように、日々、情報交換と勉強に余念がありません。そんな看護師さんの命とも言える大切なカルテのファイル。棚の2段分からはじまり、いつの間にか6段目に突入。

#### \*よく撮れてますね

事務の仕事のひとつに、写真のプリントアウトがあります。看護師さんが撮ってきた大写しの褥瘡や創部の写真をパソコンに取り込みカルテに保存するのですが、慣れないうちはぎょっとした写真の数々も、今ではどの写真がより鮮明に映っているか凝視してしまいます。そしてどんなに重症の写真を見ても思わず一言。「よく撮れてますね〜」。写メの普及で、創の状態を直接Dr.や所長に送り指示を仰ぐこともでき、とても便利に活用しています。

#### \*逆・紅一点？

女性ばかりのステーションに1人の男性職員！PTのMさん。在宅経験豊富なMさんの訪問が始まると、動かなかった足が、手が、みるみる動くようになっていきます。看護師さんたちへのアドバイスも的確で、みんながとても頼りにしています。そんなMさんは利用者様にも大人気。訪問依頼が殺到しています。



#### \*大切なレクリエーション

1人の看護師による訪問看護ステーションの開設。もちろん簡単なことではありませんでした。それでも、次々とスタッフが集まり、地域のケアに携わる方、主治医の先生、そして何より利用者様に支えられ、今日に至っています。

これからも「地域に親しまれる訪問看護ステーション」である為、スタッフ一同感謝と笑顔を忘れずに頑張っているよう、ケーキの日や焼き鳥の日、飲み会などでワイワイと騒ぐのも、日頃のストレス解消に大いに役立っています。

（事務 関口理恵）



☆一般的に事務仕事が苦手な看護師たちには、事務員がしっかり者ということはステーションにとって大変重要なことです。日々、看護師たちは事務員に感謝しています。大勢のスタッフみんなが同じような仕事ができるわけではありません。人間は機械ではないのですから。得意な事、苦手な事、それぞれを家族のように補い合いながら仕事をしていく。「みけ」はそんなステーションであり続けたいと思っています。

（管理者 椎名美恵子）



スタッフ一同（前列中央が椎名美恵子さん、後列右端が関口理恵さん）

#### 今回ご協力いただいたステーション

### 訪問看護ステーションみけ

所長 椎名美恵子

〒131-0033 東京都墨田区向島2-10-5

第5安井ビル1F

TEL 03-3626-2317

e-mail : fresca@r3.dion.ne.jp

## 「幸せな仕事」鎌田 實 著

**四** 十路を迎え、涙腺も感性も頑固になったのか多少のことでは涙が出なくなった。お悔やみ訪問では、覚悟してポケットにハンカチをしのばせていてもご家族の精一杯やり尽くした果てのあっけらかんとした笑顔に、結局ハンカチ登場とならないか、むしろ故人の知られざる面白エピソードに一同爆笑となって、逆に笑い涙を拭う始末。

ところが、頑固な涙腺を感性に一旦スイッチが入ってしまうと、若者時代より遥かに深く感動し涙が出っ放しとなることに気付いた。最近「やられた！」のは、鎌田実医師の著書。利用者さんのご家族に勤められたこと、看学時代隣席だった同級生が鎌田先生と同僚で、バンド仲間だったこと等から、持ち歩き読み始めたのはいいが、電車内で何度か涙がぼろぼろ止まらなくなり、かなり困った。老化の始まりによる情動失禁かも知れない、とにかく、ひとたび感動すると涙腺ゆるみっ放しなのだ。

先日、PHPの石田さんという方が、当ステーションに鎌田先生の新刊の営業に来られた。所長の隣に同席を許され、お話を色々伺いました。書店販売ではないので、一体どのように販売を展開したらよいものか途方に暮れて……とのこと。白い表紙が上品な一冊、さっそく拝読した。涙腺に充分用心

して一人で。1話が見開き2ページで完結のため、次から次へ100話読了まで無事流涙には至らず一安心。そして、強く思ったことは、若い看護師さん達に、この本を読んで欲しい、ということ。看護学校の卒業記念にこの一冊を贈られたとしたら、看護師としてはばたいたあとで壁に出会うたびこの本を開き、ページをめくり、鎌田先生の愛情ある言葉に癒され元気になることだろうなあ。

さて、石田さんの帰り際の一言は、大いに私の感性を揺さぶり、危うく涙腺のスイッチがオンになるところであった。「この本は読んだ人を幸せにできると信じています。」すごい！石田さんは、編集者として「幸せな仕事」をされている人だなと実感。訪問の先々で出会う人を幸せにできますように。きっとそれが私達訪問看護師の「幸せ」だから。

(太子堂訪問看護ステーション 吉澤祐子)

この本をそわにえ読者10名様にプレゼントいたします。ご希望の方は「投稿用紙」にて5月末日までにご応募下さい。

購入ご希望の方は「注文用紙」(折り込みチラシ)にてお申し込み下さい。お名前の後に「そわにえ読者」と記入していただければ、10%OFFで販売いたします。

## My Life

**利** 用者の方の「詩」の紹介です。1年前から訪問させていただいている三津田富左子さん。加賀藩、前田家の末裔で世が世ならお姫様のはず。ひょうひょうと過ごす中にも凜とした威厳を持ち合わせる魅力的な方です。94歳になられた今も、出版社からの依頼で本を出版なさっています。

「歳をとることを悲しまず、楽しみにすら思う。」数年前から物忘れがありますが悲観することなく認知症を受け入れ、ありのままの自分を大切にしています。認知症初期の平成17年に書いたこの詩は、著書の中にも掲載されたものです。「そわにえ」への掲載をお願いしたところ、その詩の通りご本人

も娘さんも快く承諾して下さいました。

三津田さんのように認知症を恐れず受け入れる気持ちが本人や周囲にあれば、症状の軽減にもつながるはず。訪問して、認知症の方々の若い者への愛情、ユーモアや広い心に感動することはしばしばあります。認知症は決してその方の人間性を低める病気ではないことが実感できる詩です。著書「50歳からの満足生活」「60歳からのシンプル満足生活」(三笠書房)

(訪問看護ステーションつくしほ城北公園 堀村也千世)



## 「惚け」

惚けは大なり小なり誰にでもあり、避けて通れぬ道である。しかし出来るだけ少なくしてその弊害を最小限に止めるべきだ。惚けはそれでも自然現象で、沈み行く太陽を呼び寄せる程の威厳がある。或る部分は素直に受け入れて自然の摂理に従おう。余り賢くて全く惚けのない老人なんて反って気持ちが悪い。適当に惚けていて人間らしいのがいい。しかし他人から惚けたと言われるのは頂けない。人間は勝手な生き物だ。娘にあなたは惚けていると言われると、「いいえ、ボケていない部分だってあります。」と言いつ返す。惚けている部分といない部分を上手に使い分けよう。惚けは人間が生きていく上の潤滑油かもしれない。賢すぎる人より少々惚けている人の方が可愛い。ギスギスしていない感じがして人当たりがいい。惚けたことを他人に示すことは素直でいい。安心して他人と接することが出来るからだ。そんなに賢がらなくていい。自然体でいけることだ。自然体が一番いい生き方だ。肩肘はらずにありの儘に……。



## 身近な場所でPDNセミナーを!!

### こんにちは！PDNです

東京都の訪問ナースのみなさま、こんにちは！PDNです。2001年4月に東京都の認証を得て設立されたNPO法人です。

PDNは「胃瘻の正しい適応」「安全な造設・交換手技」「責任ある長期フォローアップ体制の構築」を設立趣旨に掲げています。必要な情報を必要な場所に提供できるよう、ホームページの開設、各種書籍・冊子・新聞・ビデオの制作販売などを行なっています（最近では栄養チューブを洗浄する「PDNブラシ」も地道に売られています）。詳しいプロフィールは、ホームページをご覧ください。

2006年、私たちの活動で唯一出遅れていた「セミナーの開催」が一気に走り始めました。2005年の秋から2006年12月末までに、ご報告いただいているだけでも北は北海道から南は沖縄まで、120回以上の開催が実現しました。勿論、関係者の皆様や協賛メーカー各社のサポートをいただいている開催です。お力添えいただいたすべての皆様に、この場をお借りして心からお礼申し上げます。

### 胃瘻は使いこなしてこそ

さて、胃瘻造設者は毎年増え続けています。しかし、正しい適応、適切な手技と管理が共通認識として確立されていなかったり、施設間、職種間での対応の相違から、現場の

医療・看護・介護スタッフに混乱が生じていることも少なくありません。その結果、せっかく造った胃瘻を使いこなせず、相談先もわからず孤立してしまう患者さんは「胃瘻難民」となってさまよっています。そんな胃瘻難民の頼れる救援隊として、訪問ナースの皆様へ寄せられる期待はとて大きいと感じています。

PDNセミナーの一番の目的は、日常的に訪問しておられる身近な地域内での連携・情報共有です。担当地域内でその患者さんに関わっている多職種が一堂に会して共通の理解と情報の交換を行なう場、顔の見える連携のきっかけとして活用していただきたいと思います。そして、「この地域には胃瘻難民はいません!」と胸を張って他の地域を牽引して下さい。

### 仲間に入って下さい

ずいぶん偉そうな事を言いましたが、PDNは少人数で運営されている小さな団体です。セミナー開催のためにはメーカーさんも含め、沢山の方にご協力いただいております。連絡が行き届かなかったり、準備不足で参加者のニーズに応えきれなかったのではと不安になったり、まだまだ試行錯誤の繰り返しです。是非、訪問看護の最前線におられる皆さま、魅力あるセミナー作りにお力をお貸しください。

事務局は、企画段階でのご相談や共催団体・サポートメーカー探しのお手伝いいたします。ステーションの管理者の方や研修担当の方、どうぞご連絡下さい。Patient & Doctor & NurseのPDNセミナーを、一緒に企画してみませんか？後援団体としてのお申し出も有難くお受けいたします。どうぞ宜しくお願いいたします。



NPO法人 PDN (PEGドクターズネットワーク)

編集部 岡崎佳子

TEL : 5733-4361 FAX : 5776-6486

e-mail : info@peg.or.jp

http://www.peg.or.jp

**松下電工**  
エイジフリー介護チェーン

**VIERA**

上質な映像とさらなる省電力を実現  
横幅コンパクト  
アンダースピーカーモデル

720p  
720p

37v 42v 50v

地上・BS・111MHz  
デジタルハイビジョンガラスマテレビ  
PX60シリーズ  
【332 442】 【372】

¥194,800-  
42PX60

**事業内容**  
福祉用具レンタル・販売・介護リフォーム・一般建築・家電販売

住所・板橋区大山東町53-10  
Tel.03-5943-9888

**チラシお持ちの方**  
店内全品3割引!

リフレはくパンツゆったり安心

全店で介護ベッド  
「ソイーネ」を割引販売  
このチラシをお持ちになったら  
ベッド本体割引

## 投稿募集

「そわにえ」は、訪問看護師による手作りの会報誌です。日々のお仕事で感じたこと、みんなどうしてる？などの疑問、何でも良いですからお気軽にご投稿下さい。

表紙になる写真やイラスト、ダーツの旅へ掲載希望のステーションなど大募集しています。次の座談会の企画として、介護者さんや、ステーション勤務の事務員さんなど参加して下さる方を探しています。よろしくお祈りします。

次回夏号の発行は7月半ばの予定です。おたのしみに。広報委員の協力員も探しています。一緒に私たちとそわにえを作りませんか？また、広告主も探しています。協賛して下さる企業の方、ご連絡お待ちしております。

## 訪問看護協議会 入会募集

東京訪問看護ステーション協議会は、都内で活動している訪問看護ステーションの訪問看護師たちを支援していきます。ご入会を心よりお待ちしております。

3月31日現在の会員数

継続会員 329st 新規会員 39st 合計 368st

【連絡先】〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4-17  
東京都看護協会内 TEL 03-5229-1534

投稿、広告につきましては、fresca@r3.dion.ne.jp ステーションみけ・椎名までお問い合わせ下さい。

## 編集後記

訪問看護を始めて早7年経ちました。

この7年を振り返ってみると、苦しい事、悲しい事が沢山ありましたが、それ以上に看護師として『看護している』という実感を強く持てる瞬間が、私の中でかけがえのないものとして数多く残っています。[訪問看護ステーション1日体験研修]のアンケートに寄せられた感想の中で“看護の原点をみたまいました”とありましたが、まさに訪問看護は利用者毎のオーダーメイドのケアであり、『そのひとらしさ』への支援だと思えます。

今回のそわにえはVOL.9春号で、そわにえ創刊から2年が経過しました。創刊号からVOL.9までバックナンバーを見ると、東京訪問看護ステーション協議会の活動とともに広報委員としての振り返りもできる内容になっております。今後も、そわにえを通して『訪問看護らしさ』への支援を広報委員として頑張っていきたいと思えます。皆様、是非お気軽にご意見等を投稿して下さい。お待ちしております。

(廣瀬祐子)

東京訪問看護ステーション協議会  
スローガン

「広げよう仲間の輪を！手をつなごう未来のために」

## そわにえバックナンバーのご案内

皆さんお気づきでしたか？実は「そわにえ」は第2号から始まっています。連絡会から協議会へ変わったばかりでまだデザインも出来ず、ようやく初夏に今のスタイルができました。これからも「そわにえ」はカラフルな色で登場します。皆さんのステーションでもファイリングして、私たちの歴史を積み重ねて行きましょう。バックナンバーのご購入を希望する方は、事務局まで投稿用紙にてご連絡ください。残りわずかな号もあります。一部¥250(送料実費負担)となっております。

チーム医療をめざす  
ナースのために！

# 看護のための 最新医学講座

監修 ● 日野原重明 / 井村裕夫

オールカラー / B5判 / 平均420頁 / 新上製 / 分売可

● 1冊からでも注文いただけます (各巻平均10,500円)

全36巻

ただいま春季フェア開催中!

全国主要書店にて実施中!

詳しくは中山書店  
「ナースのためのホームページ」をご覧ください。  
[www.nakayamashoten.co.jp/kango/](http://www.nakayamashoten.co.jp/kango/)



サンプル  
ページ集・  
パンフレット  
進呈中!

中山書店 〒113-8666 東京都文京区白山1-25-14  
<http://www.nakayamashoten.co.jp/>

フリーダイヤルTel. 0120-377-883  
フリーダイヤルFax. 0120-381-306

エビデンスに基づく看護の総合誌

[季刊] イービー・ナーシング  
**EBNURSING**  
年4回発行(12,3,6,9月) Vol.7 No.2 ●特集  
B5変型判/平均約130頁  
(定期購読)年間5,880円(税込)



がん化学療法の  
エビデンスとEBP  
定価1470円(税込)